

今年も・・・

給食と図書室がコラボします



10月27日(金)～11月9日(木)は読書週間です。終戦の2年後の1947年、まだ戦争の傷あとが日本中のあちこちに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と、出版社・書店と図書館などが力をあわせ、そして新聞や放送のマスコミも一緒になり、第1回「読書週間」が開かれました。

それから70年以上が過ぎ、「読書週間」は日本中に広がり、日本は世界の中でも特に「本を読む国民」の国になりました。

読書には想像力を豊かにしたり、知識を深めたりするだけでなく、コミュニケーション力の向上やストレス解消の効果も期待できます。

2冊とも図書室に置いてある本なので、この機会にぜひ手にとってみてください。今回のコラボがみなさんのお気に入りの一冊を見つけるきっかけになれば嬉しいです。

今年は「読書週間」77周年です。

毎年、公益社団法人「読書推進運動協議会」が読書週間を紹介するためにポスターを作成しています。



↑今年のポスター



↑読書週間マーク

参考文献:「公益社団法人 読書推進運動協議会」ホームページ 光村図書ホームページ「給食アンサンブル」

集英社オレンジ文庫ホームページ「ゆきうさぎのお品書き」



～本の紹介～



①「ゆきうさぎのお品書き」

8月花火と氷いちご(集英社オレンジ文庫)

小湊悠貴 著

あらすじ・・・主人公、蒼は貧血で倒れていたところ、小料理屋「ゆきうさぎ」の店主である大樹に助けられる。大樹や店に訪れる人々と触れ合ううちに、蒼は少しずつ元気を取り戻していく。

暖簾をくぐれば「おいしい」が聞こえる、小料理屋が舞台のほっこりドラマ。



○栄養士からのコメント

図書室コラボ献立第1弾は11月1日(水)「メンチカツ」です。

シリーズものなので、まだ読んだことがない人は「ゆきうさぎのお品書き～6時20分の肉じゃが～」を先に読むのをオススメします。

おいしそうな料理がたくさん出てきて、読むとお腹が空いてくる食欲の秋にぴったりの1冊です。

②「給食アンサンブル」(光村図書)

如月かずさ 作/五十嵐大介 絵

あらすじ・・・転校先の学校に馴染むのを拒む美貴、子供っぽいのがコンプレックスの桃、親友の姉に恋をする満、悩める人気者の雅人、孤独な優等生の清野、姉御肌で給食が大好きな梢。

6人の中学生たちの揺れる心が、給食をきっかけに変わっていく。やさしく響くアンサンブルストーリー。



○栄養士からのコメント

図書室コラボ献立第2弾は11月6日(月)「ABCスーフ」です。

6つの短編物語で構成されているので、時間がないときでも読みやすいと思います。朝読書の時間にもおすすめです。

中学生が主人公のお話なので、みなさん共感しやすいのではないのでしょうか・・・?